

マタイ 6 : 1-18

「心からクリスチャン人生をまっとうする」

6:1 人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から、報いが受けられません。

6:2 だから、施しをするときには、人にほめられたくて会堂や通りで施しをする偽善者たちのように、自分の前でラッパを吹いてはいけません。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。

6:3 あなたは、施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知られないようにしなさい。

6:4 あなたの施しが隠れているためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

6:5 また、祈るときには、偽善者たちのようであってははいけません。彼らは、人に見られたくて会堂や通りの四つ角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。

6:6 あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋に入りなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

6:7 また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただくり返してはいけません。彼らはことば数が多ければ聞かれると思っているのです。

6:8 だから、彼らのまねをしてはいけません。あなたがたの父なる神は、あなたがたが願うする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。

6:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。

6:11 私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。

6:12 私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。

6:13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。』〔国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。〕

6:14 もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。

6:15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。

6:16 断食するときには、偽善者たちのようにやつれた顔つきをしてはいけません。彼らは、断食していることが人に見えるようにと、その顔をやつすのです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。

6:17 しかし、あなたが断食するときには、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。

6:18 それは、断食していることが、人には見られないで、隠れた所におられるあなたの父に見られるためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が報いてくださいます。

はじめに

これまでのマタイの福音書 5 章の学びでは、イエスが要求される義は、当時の宗教指導者たちが示した義よりも正しいものであることがわかりました。

当時の宗教指導者たちとは、神の律法をよく知る律法学者や、宗教指導者のパリサイ人でした。これらの人々は、神の律法に従っているように見えました。また、人が書き加えた法律にも従っているように見えました。けれども、彼らは心から従ってはいませんでした。

従っているように見えても、その裏には常に、自分が得たいという動機がありました。

私たちの創造主である聖書の神を喜ばそうとどれほど努力しても、私たち人間は、神が定められた 100% 聖なる生き方の基準に達することはできない、ということも学びました。

先月、私たちがイエスから示されたのは、殺人も姦淫もその始まりは心だということです。

イエスは、実行していなくても心で何かを考えたり、したいと思ったりしただけで、神の御目には実際にしたのと同罪だとおっしゃいました。

人の姿をした神であられるイエスだけが、完璧な人間です。

イエスは、神と人との壊れた関係を修復するために、この世に来られました。

そして、私たちの罪の罰を負うことで、それを実現されました。

ですから、神の御目に義となれる方法はたったひとつです。それは、私たちの救い主である主イエスを信じることです。

6章で、イエスはさらに踏み込んだ説教をされます。聖書が教える天の父が求めておられる完全は、内なる動機のみよさにあるとおっしゃいます。

当時のユダヤ人文化では、神に従う従順さと義を示すもっとも大切な行いだと律法学者やパリサイ人が認める3つの行為がありました。

それは、貧しい人にお金を恵むこと（施し）、祈り、そして断食でした。

イエスはここで、それらの行為を人に認められるためにするのであれば、得られるのは人の承認だけだと言っておられるのです。

一方、天の父に喜んでいただくためというきよい心でこれらの行為をするなら、それは可能な限り人目につかないかたちでなされます。

私たちが陰ですることを見ておられる天の父は、そのような行為に報いてくださいます。

イエスの説教で大切にされていることは常に、規則ではなく関係性に私たちの目を向けることです。

イエスは、規則を守るという目に見える行いよりも、きよい動機のほうがより正しいと言っておられるのです。

この点については、マタイの福音書6-7章を学ぶとはっきりとわかります。

今日は、ユダヤ人がなす神に仕える3つの行いに注目し、人ではなく神に喜んでいただくためには心からその行いをなす必要があることを見ていきます。

1. 慈善活動 (マタイ 6:1-4)

イエスがこのことばを教えておられた当時、貧しい人々への施しの習慣で聖書の教えにまったく則っていないものがありました。

律法学者とパリサイ人は、罪の赦しを得る方法として、貧しい人に施しをすることができると教えていました。(聖書外典、シラ書3:14,15,30)

この種の教えは、貧しい人に施しをするよう人々を仕向けました。そして当然ながら、施しをしたことを周囲に知ってほしいと人々は思いました。

彼らは、一石二鳥の報いを受けました。

善行によって罪が赦されるだけでなく、人に褒めてもらえて気分もいい、と考えました。

このような考え方は、今も健在です。

ノンクリスチャンで慈善活動に寄付する人の多くは、天国に行くために徳を積んでいるはずだと考えます。

また、慈善活動や施しをしていることを人に知らせたがります。

日本でお正月に大きな神社仏閣を訪ねると、どんな会社や個人がいくら奉納金を納めたか表示してあることがあります。

その一年、神からのご利益を求めて、また行き交う人たちに見てもらうためにそうするのです。

英国だけでも、昨年一年に慈善目的の寄付が96億ポンドも集まりました。

換算すると、1兆3908億9600万円という膨大な額です。

英国で寄付をしている人たちは、そこに隠れた動機があるとは誰も認めないでしょう。けれども、正直なところ、今日の聖書個所の律法学者やパリサイ人のように考えているのです。

慈善団体に寄付をしたという自負と、その善行を天国の神様が見てくれているだろうという期待があるのです。

イエスは人間の心の罪深さをご存知ですから、慈善や施しについて、もっと霊的な別の道を教えてくださいます。

イエスは、慈善目的で施すときには人目につかないようにしなければならないとおっしゃいます。

自分の気前良さを周囲に言いまわってはなりません。

この原則は、毎週の什一献金とささげものにも当てはまります。

年末にボーナスをもらったり、多額の献金をできる立場になったりしたら、献金封筒にわざわざ名前を書いてはいけません。隠れた業としましょう。

英国や米国などの国では、献金が税金控除の対象になりますから、その場合は教会の担当者が私たちの献金額を把握している必要があります。それは現実的な理由がありますからかまいません。

神は、ご自身の時に、ご自身の方法で、私たちの施しに報いと約束してください。その報いをいただくために施すものではありませんが、神は私たちが施したりささげたりしているのを知ってくださいます。そして、私たちの必要を神ご自身が満たしてください。

ピリピ 4 : 15-20

4:15 ピリピの人たち。あなたがたも知っているとおりに、私が福音を宣べ伝え始めたころ、マケドニヤを離れて行ったときには、私の働きのために、物をやり取りしてくれた教会は、あなたがたのほかには一つもありませんでした。

4:16 テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは一度ならず二度までも物を送って、私の乏しさを補ってくれました。

4:17 私は贈り物を求めているわけではありません。私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊的祝福なのです。

4:18 私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。

4:19 また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。

4:20 どうか、私たちの父なる神に御栄えがとこしえにありますように。アーメン。

パウロは、神がこの教会の必要を満たしてくださると確信していました。それは、彼らが犠牲を払ってささげていたからです。

私たちの慈善活動が周囲の人に知られているなら、神からの報いはないと、神はおっしゃいます。

一方、施しを人知れずにするなら、神ご自身が私たちに報いと約束してください。

2. 祈り (マタイ 6 : 5-15)

人知れず施すことについて教えられた後、イエスは祈りも隠れた場所でするようにと教えられます。

この教えは、ユダヤ人の祈りの習慣とは対照的です。

彼らは、通りの四つ角や会堂で祈りました。

また、「同じことばをただ繰り返す」と聖書に記されているような祈り方をしていました。言い換えると、彼らの祈りは真摯ではなく、人の注目を集めるための自分本位なものでした。

イエスは、彼らがすでに報いを得ていると言われました。それは、人の褒め言葉です。

この後イエスは、隠れた場所でどのように祈るべきかを弟子たちに教えられました。

1. 賛美

祈る時、私たちはまず賛美をし、神への愛を表現することから始めます。神のご性質と御業をたたえます。(詩篇 100 : 4) 神を賛美するとき大切なのは、聖書から神の品格やご性質を挙げることです。

また、祈るときは神が私たちの人生になしてくださった御業に感謝をささげます。

2. 目的

私たちの人生を神の目的とみこころにゆだねます。私たちは、私たち自身のうちにも、教会にも、家族や友人、職場、住む国にも神のみこころがなされるようにと祈る必要があります。（ローマ 12：1-2）

3. 備え

そして、神が私たちの必要を備えてくださるよう願います。神が祈りに答えて備えてくださったときにそうとわかるように、具体的に祈らなければなりません。

4. 赦し

私たちは、罪の赦しを神に求める必要があります。すべての罪を示してくださいと聖霊に願い、神に罪を具体的に告白するのがよいでしょう。（ヨハネ第一 1：9）

5. 人

それから、他の人たちのために祈ります。もし傷つけられたり、罪を犯されたりしたなら、その人を赦す必要があることを覚えて祈りましょう。

6. 守り

霊的に守ってくださいと神に祈る必要があります。これはとくに日本で大切です。世の中には、悪霊とその影響がはびこっています。けれども、神のすばらしい救いに与っているなら、主イエスの血が何よりの守りです。（ヨハネ第一 4：4）

イエスは、すべての祈りを隠れた場所でしなければならないと言っておられるのではありません。

当時の律法学者やパリサイ人をさばいておられるのです。

グループで集まって祈るのは良いことです。神の民が祈るために集まると、そこには大きな力が働きますし、励ましにもなります。

イエスは 14-15 節で、非常に大切な原則を教えられます。これは、隠れたところで神に祈ることと関連しています。

それは、「赦し」についての教えです。

イエスは、私たちに誰かが罪を犯したときにその人を赦さないなら、天の父が私たちを赦してくださらないと明言されます。

イエスがここで言うことを理解するのが大切です。

ある注解者は次のように言いました。

「他人に対する私たちの態度は、神に対する私たちの態度を示す。」

この注解者の言うとおりで。もし私たちが人を赦さないなら、心の中に恨みを持ち続けていることとなりますから、私たちの人生がイエスの心を表しているとは言えません。

心に赦せないという気持ちや恨みを抱えたまま、神の御許に出て、私の罪をお赦しくささいとどうして言えるでしょう。

人を赦すことで、その人たちが赦しを与えてくださる神に心を開く可能性もあります。

私たちが人を赦さないなら、それはある意味、その人たちに対して神の恵みが示されるのを私たちが阻止していることとなります。

イエスをとおして私たちが赦されたとき、神が大きな恵みを示してくださいました。そして、私たちが赦すことは、福音のメッセージの大きな証となります。

もちろん、人の罪を私たちが赦すことはできません。それはイエスをとおして神がなさることです。

けれども私たちは、私たちに對する罪悪感からその人たちを解放してあげることができません。

あなたのことを赦します、と言うことで、私たち自身も、私たちが赦してあげる相手も解放されます。

3. 断食（マタイ 6：16-18）

3 つめにイエスが言及されたのは、断食についてです。

まずここで注目すべき言葉は、「断食するときには、」です。

ユダヤ人の生活で「断食」が日常の一部であることがわかります。

けれども、神が民に断食するように呼び掛けられるのは、年に一度だけです。

それは、「贖いの日」です。

レビ記 16 : 1-10、29

16:1 アロンのふたりの子の死後、すなわち、彼らが【主】の前に近づいてそのために死んで後、【主】はモーセに告げられた。

16:2 【主】はモーセに仰せられた。「あなたの兄アロンに告げよ。かつてな時に垂れ幕の内側の聖所に入って、箱の上の『贖いのふた』の前に行ってはならない、死ぬことのないためである。わたしが『贖いのふた』の上の雲の中に現れるからである。

16:3 アロンは次のようにして聖所に入らなければならない。罪のためのいけにえとして若い雄牛、また全焼のいけにえとして雄羊を携え、

16:4 聖なる亜麻布の長服を着、亜麻布のももひきをはき、亜麻布の飾り帯を締め、亜麻布のかぶり物をかぶらなければならない。これらが聖なる装束であって、彼はからだに水を浴び、それらを着ける。

16:5 彼はまた、イスラエル人の会衆から、罪のためのいけにえとして雄やぎ二頭、全焼のいけにえとして雄羊一頭を取らなければならない。

16:6 アロンは自分のための罪のためのいけにえの雄牛をささげ、自分と自分の家族のために贖いをする。

16:7 二頭のやぎを取り、それを【主】の前、会見の天幕の入口の所に立たせる。

16:8 アロンは二頭のやぎのためにくじを引き、一つのくじは【主】のため、一つのくじはアザゼルのためとする。

16:9 アロンは、【主】のくじに当たったやぎをささげて、それを罪のためのいけにえとする。

16:10 アザゼルのためのくじが当たったやぎは、【主】の前に生きてままで立たせておかななければならない。これは、それによって贖いをするために、アザゼルとして荒野に放つためである。

16:29 以下のことはあなたがたに、永遠のおきてとなる。第七の月の十日には、あなたがたは身を戒めなければならない。この国に生まれた者も、あなたがたの中の在留異国人も、どんな仕事もしてはならない。

多くの聖書は「断食」という単語を使っていますが、自己否定や身を戒めるという表現が断食という単語を実際に使わずにそれを指す方法であると聖書学者の間では認められています。

このフレーズが使われたのは、真剣に断食をする期間であることを強調するためのようです。

一切仕事をしてはならず、自分たちの霊性を吟味しなくてはなりませんでした。

聖書は、贖いの日以外にも、神のみこころを見極めるために断食をすることについて教えています。使徒 13 : 1-2 では長老を任命するためでした。また、詩篇 35 : 13 に見られるような病気などの深刻な状況下です。

現在では、断食をすることは間違っていないませんが、それは個人的に人に知らせずにはなくてはなりません。

既婚者の場合は、配偶者には断食していることを知らせる必要があります。

断食はつらいですが、深刻な問題について神とつながる効果的な方法です。

20年ほど前、ロンドンで牧師だったとき、友人の男性から、ロンドンの私の家に来て断食をしてもよいかと尋ねられました。

彼は、自身のクリスチャン人生で解決しなくてはならないある問題を抱えていました。

私はその時、詳しい内容は知りませんでしたが、祈りと断食をしてもらえるように、彼を自宅に招きました。

その男性は4日間水しか飲まずに断食し、最後の日に、イエスがはっきりとその問題について語ってくださって、平安をいただいたと言いました。

問題の内容について私は尋ねませんでしたが、彼のほうから話してくれました。

もしかすると誰かの役に立つかもしれないので、今日ここでその内容をお話します。その人は、子どものころ、父親に叱られるときは裸にされて殴られたりベルトを鞭のようにして叩かれたりしたそうです。

私が子供だった 1960 年代のスコットランドでは、小さなことに対してでも体罰を加えるのは普通でした。

学校の先生も大きな皮の鞭を引き出しに入れていて、授業中におしゃべりをする生徒を鞭で打つのです。

私も打たれたことがあります、ものすごく痛いのです。

今の時代なら、そんなことをしたら逮捕されますが、昔は違いました。

私の友人の場合は、体罰の前に裸にされるという恥ずかしい思いもさせられていました。彼は父親の死後も、そのような体罰と辱めを受けたことについて父親を赦すことができませんでした。

彼はクリスチャンで、父親を赦すべきだとわかっていたのに、赦せなかったのです。

けれども、4 日間の断食を経て、イエスは彼にはっきりと語って下さいました。

イエスは、ご自身も裸にされてむち打たれ、丸裸のまま十字架にかけられ、その友人の罪のために苦しみながら死なれたのだと語られたそうです。

彼は涙を流しながら、「今、私は父を赦します」と言ったそうです。

これは実話です。断食が役に立った実例です。

皆さんには、クリスチャン人生で解決しなくてはならない問題がありますか。

もしかすると、隠れた場所で断食をすることが助けになるかもしれません。

では話を本筋に戻します。

断食をするときは、そのことを知る必要のある人にだけ伝え、人に見られずにしましょう。

18 節には、人に知られずに断食をする人を神が報いてくださるとあります。

私の友人は、心の平安と、父親を赦す恵みという報いをいただきました。

神は私たちにも報いて下さいます。

まとめと適用

今日のメッセージのタイトルは、「心からクリスチャン人生をまっとうする」でした。

そうするにはまず、イエスに、私たちの心の中に住んでいただく必要があります。

また、聖書に教えられた神のみことばに従う意志がなくてはなりません。

私たちの文化や習慣が神のみことばと相反するものであっても、みことばに従わなければなりません。

イエスが十字架上で死なれたとき、私たちの罪の罰を受けてくださり、サタンの支配から解放して、イエスについていけるようにして下さいました。

聖書の神が天の父であられ、イエスが救い主であられ、聖霊が慰めと助けを与えてくださるお方であられるなら、そこには恵みと愛と自由があります。

もしまだイエスを信じていないなら、今日、信じませんか。